３．糖尿病と認知症との関連

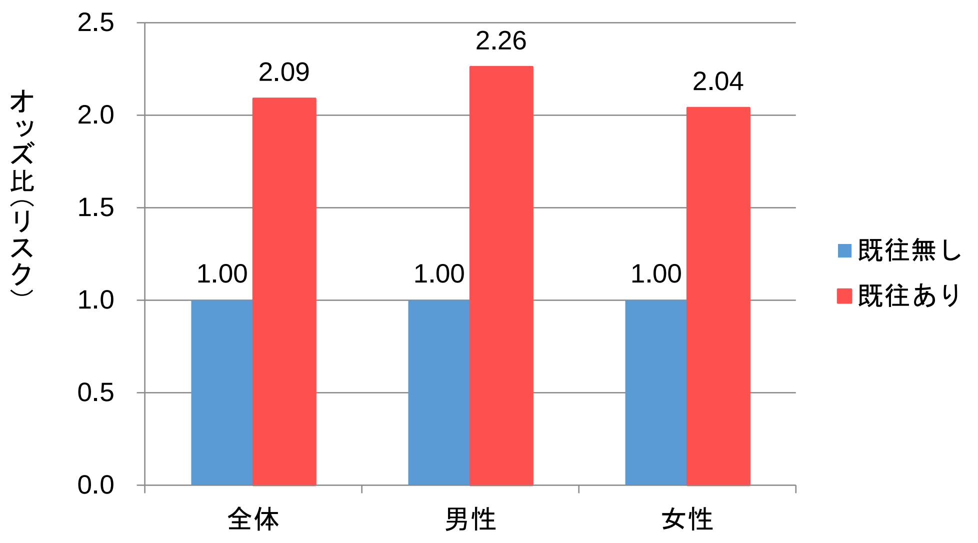
～糖尿病があると認知症のリスクが 2 倍になる～

認知症の発症予防のためには、リスクとなる生活習慣や疾患を明らかにすることが重要です。認知症の原因として、高血圧、脳卒中、心臓疾患、糖尿病、高脂血症などの疾患が言われていますが、認知症の発症メカニズムや原因はまだ分からないところも多いのが実状です。富山県認知症高齢者実態調査の結果から、認知症と既往歴との関連を調べました。

その結果、年齢や性別糖を調整した後のオッズ比は、2.09 となり、認知症があると認知症になるリスクは約 2 倍になることが分かりました（図１）。

糖尿病など生活習慣病の予防が、認知症予防に有効である可能性があります。

（図１）糖尿病の既往と認知症との関連



性別、年齢、生活習慣（飲酒、喫煙）、既往歴（糖尿病、高脂血症、甲状腺の病気、パーキンソン病、高血圧症、脳卒中、狭心症・心筋梗塞、歯・口腔の病気、骨折、その他、既往歴なし）を調整済み

出典：平成 26 年度富山県認知症高齢者実態調査追加分析報告書